

農作業コツのコツ

【第3号】
令和6年4月27日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

育苗ハウスの換気を徹底し、がっちり苗に仕上げましょう。

出芽ムラの程度に応じ、かき取り量を調整し、欠株を防止しましょう。

暑い日が続いています。換気の徹底で健全な硬い苗に仕上げましょう。
今年は特に早生品種で**出芽ムラが目立ちます。田植時の欠株に注意**しましょう。
適切な植付深さと浅水管理の徹底により、初期生育を確保しましょう。

水稻・移植

1 育苗後半の管理

- ・硬化期のハウス内温度は、**昼間 25℃以下**、夜間 10℃以上を目安に管理を徹底しましょう。
- ・田植えの7日前頃からは夜間も**換気**し、硬い苗に仕上げましょう。
- ・**かん水**は早朝1回とし、箱の底まで浸透するよう、むらなくかけましょう。かん水過多に注意し（低温時は特に注意！）、フェーン現象等で乾いた場合は日中もかん水しましょう。

かん水が多すぎると根の伸びが悪くなるとともに、カビが発生しやすくなります。

2 田植え

(1) 代かき作業

除草効果を高めるため、

- ①代かきから田植えまでの日数は3～5日とし、長くないようにしましょう。
- ②少なめの水で代かきを行い、稲ワラや雑草を鋤き込み、**田面を均平に**仕上げましょう。

(2) 基肥量

- ・倒伏が懸念されるほ場では、基準量から1割程度減らしましょう。
特に密苗栽培では、施肥基準量を厳守しましょう。
 - ・前年、出穂前に色ざめしたほ場では、基準量を確実に施用しましょう。
- ※品種毎の基肥量は『営農とくらし』50～51 ページを参照してください。

作業前や田植中、田植機の**施肥ホツパ**や**ホース、排出口に詰まりがないか**確認しましょう。

(3) 田植作業

- ・**ブーンレパード箱粒剤**の散布(播種時に施用していない場合)

散布量	慣行苗 50g/箱	密苗 50～100g/箱 (1 kg/10a)
散布時期	田植え当日までに均一に散布	

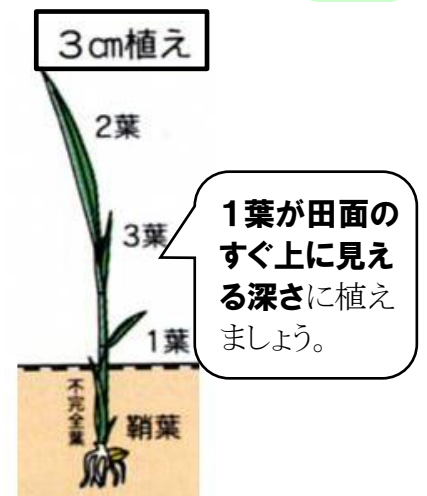
密苗の10a 当たり散布量は**1kgを超えない**。
例) 苗箱数 12 枚/10a
→ 施薬量 80g/箱

【注意】ハウス内で野菜等の作付けを予定している場合は、ハウス内での散布は禁止。

- ・田植前には必ず田植機の調整(植付株数、本数、深さ)を行いましょ。
 - ・低温や強風の日には田植えを避けましょ。
 - ・**出芽ムラが大きい苗**を田植えする場合は、**かき取り量を多くし**、欠株を防止ましょ。
- ※かき取り量を増やした場合、使用苗箱数が多くなります。苗が足りなくなる場合は、植付株数を基準より10株/坪程度減らましょ。

【田植作業の目安】

	とみちから 五百万石	てんたかく 81 コシヒカリ 新大正糯	てんこもり
植付株数	80 株/坪	70 株/坪 (コシヒカリ: 中山間地域など初期茎数のとれにくいほ場は 80 株/坪)	60 株/坪
植付本数	慣行苗 3～4 本/株 密苗 5～6 本/株		
植付深さ	3 cm 程度		



初期分けつの発生を良くするため、植付深さは3cm程度とし、活着後の浅水管理を徹底しましょう。

農薬の使用前に必ずラベルで使用方法を確認しましょう。

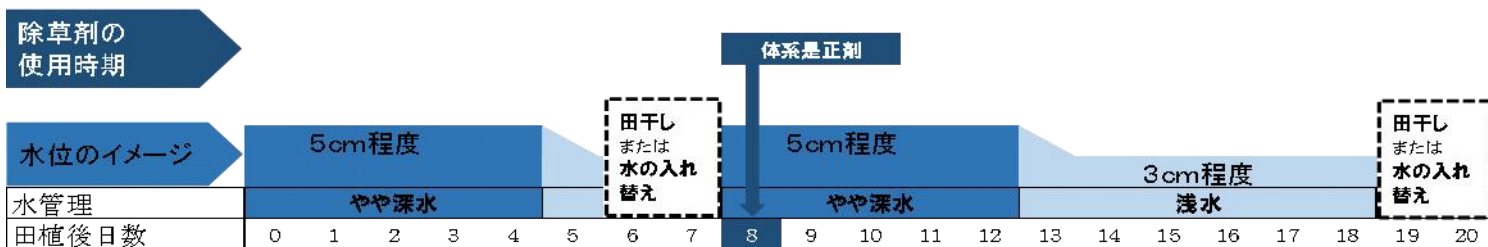
3 田植後の水管理

- ・田植後の植え傷みを防ぐため、苗が水没しない程度の深水(5cm程度)としましょう。
なお、密苗は慣行苗よりも軟弱なため、田植後は浅水管理としましょう。
- ・活着後は3cm程度の浅水管理を徹底し、田水温を高め、初期分けつの発生を促しましょう。
- ・低温や強風が予想される場合は深水とし、天候回復後はすみやかに浅水管理にしましょう。

4 除草剤散布

- ・使用基準、使用上の注意を守り、遅れないように除草剤を散布しましょう。
また、農作物毎の生産履歴証明に必ず使用月日や量を記帳しましょう。
- ・散布後5日間は湛水状態(水深5cm)を確実に保ち、田面を露出させないように水が足りなくなったらゆっくりと差し水をしましょう。
- ・成分が水田外へ流出しないよう散布後7日間はかけ流しや落水をしないようにしましょう。

(例)田植え後に体系是正剤を処理する場合



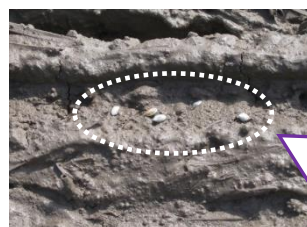
※詳しくは『営農とくらし』の34～35、56～63ページを参照してください。

水稻・直播

1 カルパーコーティング

(1) 播種

確実に覆土(5～10mmの播種深度を確保)されていることや、種子や肥料の落下量を確認しながら播種しましょう。



覆土されていない種子が多い場合は、播種直後に1日入水してから落水し、種もみを落ち着かせましょう。

(2) 播種後の水管理

- ・播種後5～7日程度は田干しを行い、芽に酸素を供給しましょう。
また、強風が吹くなど荒天の場合には、乾きすぎにも注意しましょう。
- ・田干しが終了したら入水し、水持ちを安定させましょう。
- ・水持ちが安定したら、湛水状態で除草剤を散布しましょう。



足を踏み入れ、2～3cm程度しか沈まなくなった頃が入水時期です。

※詳しくは『営農とくらし』の60～61、63、74～75ページを参照してください。

2 鉄コーティング

(1) 播種

代かき後自然落水し、土壌がある程度締まった状態で播種しましょう。

【播種量の目安】

播種量(乾籾)	3.0～3.5 kg/10a
1m間苗立本数	12～25本

播種時の土壌の硬さは、種子が田面に張り付き、施肥溝が埋まらない程度



(2) 播種後の水管理

- ・播種同時または播種直後に必ず除草剤を散布し、除草剤の効果を高めるため、播種後7日間程度は深水(水深5cm程度)による湛水管理を行いましょ。
 - ・湛水管理後は水を落とし、田面が湿った状態を保つ飽水管理を行い、出芽を促進させましょう。
- ※詳しくは『営農とくらし』の60～61、63、76～77ページを参照してください。

大豆作付け予定ほ場では、早めに額縁排水溝などの排水対策の徹底を！